

北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

2000年1月 NO・4



円覚寺前での街頭募金

(2000・11・19)

目次

- 第2回北鎌倉台峯トラストの集い
- 活動報告
- NPO法人化に向けて
- 北鎌倉の風第2号のお知らせ
- 足立大進円覚寺管長のお話要旨
- 北鎌倉文学散歩
- 談話室(会員欄)
- 伝言板



早ければ4月にNPO 法人に

新年明けましておめでとうございます。記念すべき新しい世紀の新春を会員の皆様は、どのようにお迎えになりましたでしょうか。



北鎌倉の景観を後世に伝える基金（略称・北鎌倉台峯トラスト 英文名 K I TAKAMAKURA LANDSCAPE TRUST）は、ことし1月、さらなる拡大発展を目指して、神奈川県に念願の NPO（特定非営利活動法人）の認証申請をしました。問題がなければ、4月か5月には、NPO 法人となります。現在の NPO 法には、寄附金が課税対象になるなどさまざまな課題があります。しかし、活動内容をよりクリア、オープンにすることによって、基金の信用度がアップする可能性があるなど、法人化に伴う大きなメリットが期待できます。

昨年12月3日に円覚寺書院で開催された「第2回北鎌倉台峯トラストの集い」で、足立大進円覚寺管長に「人間は生きているのではなく生かされている」という趣旨のお話をさせていただきました。私たちのトラスト運動に置き換えてみれば「自分たちがトラスト運動をしているのではなく、多くの人々の後押しによって、トラスト運動をさせていただいている」ということになると思います。謙虚な気持ちで、「台峯を里山的に実質保全する」という目標を達成するための活動を続けていきたいと思っています。

中央公園の拡大によって、台峯を保全したいとしている鎌倉市とあくまでも区画整理事業を達成したいとする地権者との協議は、本当の意味での大詰めを迎えようとしています。引き続き会員の皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

地権者との意見交換は大きな成果—台峯トラストの集いから—

「第2回北鎌倉台峯トラストの集い」には、来賓として呼び出した「緑ショップ」の前田陽子監事（鎌倉市議）と「鎌倉自主探鳥会」の久保広晃さんを含め約40人の会員に参加していただきました。冒頭、なだ いなだ代表は「地権者との話し合いは、非常に成果があったと思う。地権者の方々の先祖は、何百年も前に台峯に住み、その土地を受け継いだ。深い愛着があるのは考えてみれば分かる。話し合いの場を持つことによって、私たちが反対のための反対をしているのではないことを理解していただいたように思う」と挨拶。続いて来賓挨拶があり、森泉定男委員長の「1年間の活動報告」、野口稔広報担当委員の「北鎌倉の風」第2号発刊の趣旨説明、小林京子会計担当委員の「会計報告」、吉野功、林雄一郎監事の「NPO 法人化に向けて」の説明がありました。そして、足立管長に記念講演をしていただきました。

トラストの集い終了後、直ちに NPO 法人についての設立総会を開き、NPO 法人化の意思決定をしました。

6月以降の活動報告

8月 5日	台峯の緑保全に係わる協議の経過説明会参加 (鎌倉市主催) 当会はじめ台峯の自然保護団体4と開発派として中部同友会等合計38名が出席し、それぞれの立場で意見を述べる	・ 定例会 北鎌倉公会堂で開催 (毎月第1日曜日 10時より)
11月1日	機関誌「北鎌倉の風(2号)」発行 台峯に生きとし生けるものの四季を写真で紹介	・ 台峯を歩く会 毎月第3日曜日に定期的実施 平均15名程度の参加者あり
11月5日	鎌倉市みどり課を招き説明会開催 台峯を巡る動向を8/5日の説明で充分で無い点など中心に聞く みどり課長他1名出席	
11月19日	募金活動(北鎌倉円覚寺前) 今回は機関誌の販売によるカンパ中心	
11月23日	土地区画整理組合から意見を聞く会	

財 産 目 録

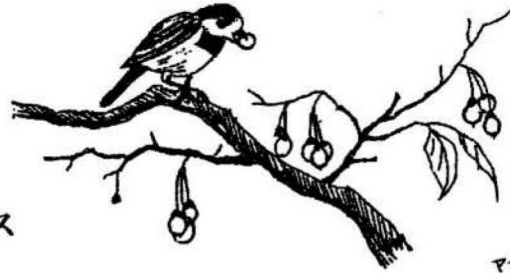
平成12年11月30日現在

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

科 目 ・ 摘 要	金 額	
I 資産の部	円	円
1 流動資産		
流動資産計	596,096	
固定資産		
固定資産計	8,195,320	
資産合計		8,791,416
II 負債の部		
1 流動負債		
流動負債計	0	
2 固定負債		
固定負債計	0	
負債合計		0
正味財産		8,791,416

市と地権者の協議を見守る

会報 NO3 で、鎌倉市の中央公園拡大による台峯緑地保全構想案と、地権者である区画整理設立準備委員会の区画整理事業基本構想（案）について、お知らせしました。市と設立準備委は、それぞれのただき台をベースに平成11年11月29日から平成12年2月10日まで4回にわたって協議しました。この協議を踏まえ、対立点、一致点を整理し、「台峯の緑保全に係る協議の課題等について」を公表し、近隣の町内会や市民団体の意見を聞きました。市と設立準備委の今後の協議は、以下の設立準備委【課題解決に向けての提案】と鎌倉市の意見を基本に話し合われることになりそうです。当基金は「里山的実質保全」という、設立目的との整合性を念頭において、両者の協議を見守り、態度表明をしたいと考えております。



マミグランド
エゴノ木

7/10

課題解決に向けての双方のスタンス

(1) 準備委員会の意見

【課題解決に向けての提案】

- ① 自然環境に与える影響が大きい区域を公園として緑の保全を図る。その措置を行うことにより、公園として買収する面積が減少し、事業費の削減とともに事業期間の短縮が図られ、土地所有者も協力しやすくなり、公園事業の早期実現にもつながることとなる。
- ② 土地区画整理事業の実施により、土地利用の増進が図られることに付随して緑地を確保し、市に無償で移管することが可能となり、市の緑地面積が増加し、公園事業費の軽減化が図られる。
- ③ 土地区画整理事業により、区域内の道路整備がなされ、この道路を公園進入路として活用することが可能となる。このことは、道路の造成費を土地区画整理事業で負担することとなり、市の公園事業費の軽減化が図られる。

(2) 鎌倉市の意見

- ・ 鎌倉市は、緑の基本計画に基づく鎌倉中央公園拡大区域の整備構想実現を希求している。
- ・ 事務レベル協議の中では、準備委員会の提案と「緑の基本計画」の関係については、計画論上の位置づけ（貴重な谷戸の自然環境の一体的な保全と活用及び北鎌倉の景観上重要な樹林地を保全するため、鎌倉中央公園の拡大区域とする。）において、大きな齟齬はきたさないと考察している。
- ・ 鎌倉中央公園の拡大区域として都市計画決定の手続きを行う場合は、土地所有者の理解と協力が無ければ困難であることは認識している。
- ・ 土地所有者で構成されている準備委員会の土地区画整理事業に対して、法的に土地区画整理の手続きを止める事は困難であると考えていることから、区画整理の手続きと保全協議を並行して行い、話し合いによる解決を目指している。

設 立 趣 旨 書

平成12年12月3日

特定非営利活動法人北鎌倉の景観を後世に伝える基金
設立代表者 なだ いなだ

「目的」

北鎌倉の街並みは、豊かな緑と歴史的な建造物がほどよく融合し、地元の住民だけでなく北鎌倉を訪れる人々に安らぎを与え、世界の共有財産といってもよい存在になっています。JR北鎌倉駅にほど近い台峯地区の緑地には、都市部では珍しいまとまった谷戸の自然がいまなお残され、さまざまな生物や植物に生存の場を提供すると同時に、個性的な北鎌倉の街並みの重要な構成要素となっています。私たちは、この台峯緑地を里山的に実質保全し、かけがえのない北鎌倉の街並みを次世代に引き継ぐことが、緑を生かした街づくりに役立つだけでなく、「人間と自然の共生」という地球規模のテーマにも合致すると考えます。市民団体から特定非営利活動法人への脱皮によって、台峯緑地保全運動のさらなる拡大、発展を目指します。

「設立の経緯」

台峯地区に大規模な宅地開発計画（開発面積約27ヘクタール）が具体化したため、1998年11月1日、「ナショナルトラストの手法によって台峯を里山的に実質保全する」という目標を掲げ、市民団体「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」を設立いたしました。

以後、円覚寺前での街頭募金、「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」、「北鎌倉台峯トラストの集い」「講演&チャリティ・コンサート」などの催しを企画、実施したり、機関誌「北鎌倉の風」と会報「北鎌倉だより」を発行し、多くの人々に台峯緑地保全の必要性を訴え、浄財のご提供をいただいております。

2001年には、宅地開発問題は大きな山場を迎えることが予想され、より多くの人々のご理解と協力が必要となります。このため特定非営利活動促進法に基づく法人として位置付けることが適切であると判断し、設立の運びとなりました。

設立についての意思の決定を証する議事録

1 日時

平成12年12月3日(土) 午後4時30分から5時まで

2 場所

鎌倉市山ノ内409 円覚寺書院

3 出席者の数

20名

4 議題

第1号議案 設立趣旨書承認の件

第2号議案 特定非営利活動法人北鎌倉の景観を後世に伝える基金定款案承認の件

第3号議案 設立初年度及び翌年度の事業計画書及び収支予算書案承認の件

第4号議案 法第2条第2項第2号及び第12条第1項第3号に該当することの確認の件

第5号議案 役員の選任の件

5 議事

開会に先立ち、議長に設立代表者堀内 秀が、また議事録署名人に森泉 定男及び小林 京子の2名が選出された。

定刻、堀内 秀が議長席に着き開会を宣し、次いで議事に入った。

議題の各議案の審議の結果は、次のとおりである。

第1号議案 満場一致をもって承認可決された。

第2号議案 満場一致をもって承認可決された。

第3号議案 満場一致をもって承認可決された。

第4号議案 満場一致をもって確認された。

第5号議案 理事に新楨 幸子、石黒 英子、小田原 茂夫、小林京子、齋藤 博子、楢原 一郎、野口 稔、古山 典子、堀内 秀、望月 晶夫、望月 真樹及び森泉 定男の12名が監事に林 雄一郎及び吉野 功の2名が選任された。

上記の経過と結果を明らかにするため、議長及び議事録署名人は署名押印する。

平成12年12月3日

議長
議事録署名人
議事録署名人

堀内 秀
森泉 定男
小林 京子

北鎌倉の歴史を後世に伝える基金委員会

北鎌倉の風第2号発刊のお知らせ

—特集・台風の生きとし生けるものの四季—

そこには懐かしい日本の原風景があった！

台峯の里山的実質保全」を目標に掲げ、ナショナル・トラスト運動を展開している「北鎌倉の里山の風景を後世に伝える基金」(代表なだ いなだ)は、11月1日、機関誌「北鎌倉の風」第2号を発刊しました。第2号では、運動の本質をより深くご理解いただくために、「台峯の生きとし生けるものの四季」というタイトルのカラー写真特集を組みました。トラスト対象地で、湿地をベースにした台峯には、懐かしい日本の原風景が残されています。台峯という独立した生態系の中に息づく野鳥、トンボ、ハンノキ、草花、動物たちの生き生きとした表情を紹介できたと思っています。宅地開発が行われれば、こうした台峯の生きとし生けるものの多くは姿を消し、日本の原風景も失われてしまうでしょう。皆様のご支援、ご協力の意味を込めて機関誌第2号をお求めいただきたいと願っております。お求めいただく場合は、振込用紙に「『北鎌倉の風』第2号を希望」と明記し、600円(実費、郵送料、お手渡しの場合は500円)を下記の口座にお振込みいただければ、事務局より郵送致します。より積極的に運動支援のお気持ちのある場合、600円以上お振込みいただければ私たちにどって、大きな励みになります。

【第2号の主要コンテンツ】

- [1] 少年時代の原風景 なだ いなだ
- [2] 宮澤賢治と香風園 和泉 あき
- [3] インタビュー 人が来ないと谷戸は悲しがる
- [4] 写真特集 台峯の生きとし生けるものの四季

【振込先】郵便為替

口座番号 00250-2-20454

口座名 「北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会」

＜問い合わせ先＞

北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会事務局

〒247-0062 鎌倉市山ノ内 1045 (小林方)

TEL/FAX 0467 (22) 7993



「北鎌倉の風」第2号の発行を伝える新聞記事

[illegible]

生きているのではなく生かされている

円覚寺管長 足立大進師のお話要旨

戦争中、日本の敵国の米国ですら、歴史的配慮から鎌倉を爆撃しなかった。しかし、戦後、一部の人たちは利権に惑わされて、鎌倉の縁はあっという間になくなってしまった。しっかりと設計図があれば、今のような開発はなかったはずだ。お寺とお宮がなければ縁はまったくなくなっていたであろう。

▽設計図通りに運ばないのが人生

土木、建築、造園は設計図があればその通りになる。しかし、設計図通りに運ばないのが人生だ。思い通りにならないことが苦で、「老、病、死」が思い通りにならない。不安定な人生で何が大切か。「安心（あんじん）」が大切だ。「安心」を得るには動かないものにすがればいい。人生で動かないものは「老、病、死」だ。避けることが出来ない。しっかりと見つめるべきなのに人は避けようとする。仏教の開祖のお釈迦様は、早くに母親を亡くしたことから小さいときから死を見つめ、「今どうして生きているのか？」の疑問解明に真正面から取り組まれ、悟りを開かれた。

▽一番大切なのは「縁起」

仏教の教えは膨大だが、一番大切なのは「縁起」だ。すべてのものが存在するのは、縁起による。つまり条件があって存在しているのだ。仏教では悟りのことを「回心（えしん）」という。「回心」を体験することが悟りなのだ。「回心」はUターンと言い換えてもいい。Uターンとは、自分が生きているのではなく、計り知れない条件によって生かされていると気付くことだ。今の時代は壁がない。壁がないからUターンも出来ない。Uターンを繰り返すほど人間はたくましくなる。壁がないから、縁によって生かされていることに気付かない。

▽支配でなく共生が本当

西洋思想では自然を征服、支配し快適な生活を求めようとする。これに対し、東洋思想は自然に溶け込んで生きようとする。「共生」の思想だ。「きょうせい」と読んでもいいが、「ともいき」がしっくりする。自然の中に生まれ、限りない縁によって生かされていると気付く。こちらが本当ではないか。こうした気持ちでトラスト運動に取り組まれてはどうか。



北鎌倉文学散歩

★荘のこと

事務局担当委員 和泉 あき（相模女子大学名誉教授）

北鎌倉の駅から少し大船よりに、よく知られた通称「権兵衛踏み切り」が、あります。この辺一帯の地主であった小泉権兵衛氏が設置を寄附されたものと聞きました。鎌倉街道から入ってこの踏み切りを渡ると、右側に山道伝いに円覚寺の境内に至る道があります。岐れ道のすぐ先に、先ごろ夫人も亡くなられた高見順の旧居があるのですが、その地続きに変わった造作の二階建てのマンション（？）が建っています。前は高見邸の敷地だったのかもしれませんが、私には事情が分かりません。このマンション（？）の入口には「荘園」という名称が掲げられています。川端康成の書です。川端の字は特徴がありますし、康成の署名がありますから間違いありません。造作が変わっているから、名前も変わっているんだと私は納得していました。

ところで、私が当地に越してきてから、以前この近くにすんでいたという学生時代以来の友人が、懐かしがって尋ねて来てくれました。帰りに駅まで送りがてら私はこの道を案内したのです。夜、彼女から連絡がありました。「あれは荘園じゃないわよ。右から★荘と読むのよ。」

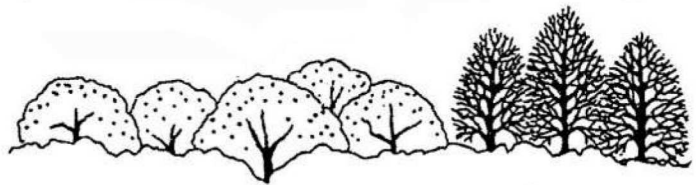
途端に思い出したことがありました。もう随分前のことになりますが、息子がある学校を受験して帰宅後、書き取り問題に出たといって、こんな会話がありました。カンセイな住居、という時のカンセイは観静でいいんだろう。」私は呆れて「そんな字も知らないの？観静に決まっているでしょう。」するとかれは不服そうに「だって伊豆の家の額に観静と書いてあるよ。」と言ったのです。伊豆高原に小さな家があって、そこのリビングにある坊さんの「静観」という扁額が掲げてありました。ずっと家の備品のようにそこにあって、改めて話題にしたこともありませんでした。当然、書の前額は右から書いてあります。息子は幼いころから自然の風景のようにそれを見慣れていた、そして、これまた当然のように左から見ていたのです。

ところが、何と恥ずかしいことに私が同じ間違いを犯して、右から★荘と読むべきところを、左からすまして荘園と読んでいたのです。川端康成の字は癖があるからとか、★が正字で円ではなかったから、などというのは言い訳にもなりません。あれは「まどか荘」と読むのです。友人には感謝して平謝りに謝りました。結局、息子は「カンセイ」の学校には行かなかったのですが、親の権威(?)は丸潰れで、彼にはまだこの話を出来ずにいます。

もしご存知でない方がいらしたら、どうぞ川端の書をご覧になって、右からお読みになって下さい。

【注】★は 圓





肩並べ…同じ視線で…

なだ いなだと北鎌倉周辺をあるくから

携帯スピーカーがあるといいな

何度か出席させていただいて、一番驚くことは、その度毎にはっきり季節の移り変わりを告げてくれる生き物たち、鳥であり虫であり木々であり、また花々です。ほとんど毎回同じコースを歩いていることでその変化を強く感じるのだと思います。

そしてその一つ一つの変化に気付かせてくださるのが、久保さんの適切なガイダンスだと思います。山歩きで久保さんのお話が聞こえてさまざまな生き物を見るのと、聞こえなくてただ歩くのでは感銘と感動の深さに大きな差があるように思います。（中略）ガイドの方が、ポケットに入るような小さなスピーカーをつけ、説明をして下さり、参加者は耳にスピーカーをつけて聞きます。ガイドの方は囁くような小さな声で話すことも可能であり、また参加者は各自自由な位置で説明を聞けます。（以下略）

石原 瑞穂 鎌倉市梶原在住

状況の説明に役立ちたい

前略

鎌倉へはお寺や街、海を見に何度か訪れたことがあります。NHKのテレビでここが放映され、行ってみたとウォーキングのつもりでしたが、この地を守る皆様を知り、また自然が造った見事な形態が壊されつつある状況の説明に少しでもお役に立ちたいと思っております。東京から2時間近くかかりますが、また行きたいと思っております。

草々

片田 晃滋 東京都世田谷区在住

大自然の大きな懐に改めて深い畏敬の念

本年（2000年）初めて山歩きに参加させていただきました。2回の山歩きで、今まで漫然と分かっていたつもりでございました自然は、何と無関心に近いものであったことに気付きました。

最近NHKラジオ深夜便で、元京大生態学研究センターの先生の講演を聞きました。テーマは「里山は宝の山」というものでした。それを聞きまして、子供の頃に遊び、育ててもらったあの山、この森に思いをいたし、大自然の大きな懐に改めて深い畏敬の念を抱きました。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。高塚 農夫雄 鎌倉市今泉台在住

理屈も大切ですがムードも大切

一、月一回の台峯緑地歩きの時に、参加者に手渡す

「リボン」ですが、いつも最後に返してもらう形のようなのですが、経費を節約すると言うのはよく分かりますが、あまりよい形でないと思っています。理由は（中略）連帯感、一体感をそこでぶつんと切ってしまうように思います。理屈も大切ですがムードも大切です。よい印象をリボンとともに持ちかえるのもよいことではないかと思っています。さらにそのリボンに「ロゴマーク」が入っているともっとよいと思います。

二、よく分かりませんが、会自体も台峯の土地の権利者、所有権者として、または借地権者という立場をつくれれば、よいのではないかと思います。その上で、ねばり強く運動をしていくのがよいような気がします。（中略）鎌倉市の【緑の保全】がどうなっているのか一目で分かるものがほしいと思います。それらと関連付けて説明されているものがあると、初めての参加の方々にもよいのではないかと思います。

岩瀬 鎌倉市津西在住

できるだけ手を加えない谷戸を訪れたい

鎌倉で生まれて、このかた24年になりますが、台峯という場所がとてもすばらしいのだということを知ることができました。私の住む側にも山がありますが、この今日訪れた谷戸は是非とも未来の人々に残したいと思いました。（中略）

僕としては可能な限り、手を加えることのない（公園として整備すること）谷戸を家族で訪れたいと思います。だが、お年寄りにはある程度整った道があれば喜ばれると思いますが。あまりむやみに入るのもよくないですね。宅地になるよりははまだ、公園のほうがいいでしょう。（中略）

僕にとって鎌倉の自然はただそこにあるだけです。いつも身近に在るものです。なんという豊かなことでしょう。昔は当たり前だったのが、実は少ししかない。今ある自然は危ないのだ、そう考えるようになりました。そう思ったら、実際に行動している人たちがいた。なんとも嬉しいことです。僕も谷戸を残したいと考えます。

浅生 大輔 鎌倉市在住

第二回の集いアンケートから

アンケートを書く時間が、ほとんどなかったにもかかわらず、四名の方からご回答いただきました。本当にありがとうございました。

1. トラストの集いの感想は？

- ①短い時間に手際よく進行されました。free talkの時間がなかったのは、少々残念。地権者との話し合いであちらの情報が分かったのは収穫でした。(水野博子 山ノ内在住)
②担当の方のそれぞれの個性と情熱が伝わるよい会だったと思います。(市川節子 梶原在住)
③大変よい会に参加させていただきありがとうございます。委員の皆様へ感謝します。何か私にもできることにこれからできるだけ参加したいと思います。(武智好子 台在住)
④足立先生のお話を聴く機会に恵まれて幸せに思いました。(吉澤百合子 山ノ内在住)

2. トラストの集いは今後も必要か？

- ①必要…会の目的の進捗状況を知りたい。(水野)
②必要…情報だけでなく各々の人の決意表明というか確認の場になるように思います。(市川)
③必要…活動の内容が大変よく分かりました。(武智)
④必要…情報が一堂に皆さんに公開される場があって、運営が明確になると思っています。(吉澤)

3. 活動情報の伝わり方は？

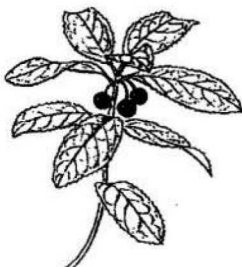
四人全員かほぼ満足と回答

4. 活動の拡大発展のためのアイデアは？

水野さんのみ「法人化して、正会員から銀行預金などから定期的に基金に振り込めたら、寄附行為がしやすいと思う。そういう金融機関を探してみることは？」と回答

5. どんな活動の支援が？

「募金等行事の手伝い」(市川、武智)、吉澤、「みどりのサポーターショップ版としての参加」(武智)



参加・不参加の返信ハガキから

【参加】

①元大船高校で新聞部顧問をしていましたが今回の件、大船高校の現役にも知らせ是非取材させていただければ存知ます(男性、三浦郡葉山町在住)
②質問トラスト加入は、鎌倉地域住人しかできないか？(女性 鎌倉市山ノ内在住 *当トラストは地元密着、全国展開をモットーにしており、鎌倉市以外の方々の参加を歓迎します)

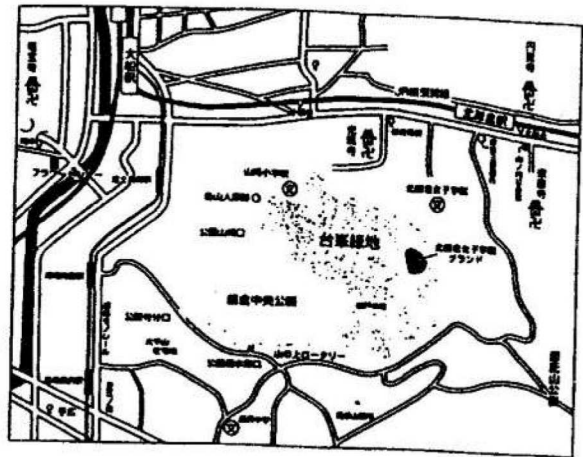
【不参加】

①「守りたい」と思いながら地主さんに遠慮しながら台峯を歩き、じれったい気持ちをいかんともしたいです。税制から考えなくてはいけないのではと思います(女性、鎌倉市西御門在住)
②「広町ものふの道の会」の会報に「北鎌倉台峯トラスト」が応援してくださったという記事がありました。自然保護は横のつながりが大切と存じとてもうれしく拝見しました。手をつないで鎌倉の緑を守っていきたいと思いました(女性、鎌倉市鎌倉山在住)
③十月二十八日の読売新聞に、作家井上ひさし氏が理事長をしている「鎌倉広町・台峯を守る会」の紹介がありました。一つの目的に向かって、合同で運動してはいかがでしょうか(男性 世田谷区在住)
④鎌倉から離れたことに加え、子供がまだ1歳なのでなかなか身動きがとれません。皆さんと歩く日を夢見しています(女性 静岡県掛川市在住)
⑤「鎌倉」を世界遺産に指定して、国が台峯・広町を買い取る方向でできないでしょうか(男性 鎌倉市材木座在住)
⑥NPO法人化賛成協力します。会員を増やす対策の一つとしてパンフレットを置いてくださるお店の開発を(男性、横浜市在住)
⑦継続は力。良い風が吹きますように(男性、山ノ内在住)
⑧「人間と自然との共生」、私たちにあって是非とも必要なことだと思います。自然が破壊されたとき、それは人間の心の破壊でもあります(男性、藤沢市在住)
⑨先月入会したばかりの者です。三十二年前に故郷を離れて、新婚から三年ほど暮らした北鎌倉の台は、大切な懐かしい、大好きな所です。いつもいながらにして自然の移り変わりを感じられた大切な場所が危ないと伺い、微力ながらお手伝いできたらと思っています。鎌倉好きの友達にも是非伝えたいと思います(女性 横須賀市在住)

*これ以外にも多数のご意見をいただきましたが、誌面の都合上、割愛させていただきました。ご了承下さい。

【定例行事】

「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」
毎月第3日曜日午前9時に北鎌倉・東慶寺手前の山ノ内公会堂に集合、主に台峯から鎌倉中央公園まで、鎌倉自主探鳥会のメンバーにガイドしていただいて歩きます。春夏秋冬の谷戸の自然に触れていただくことによって、私たちの取り組みの真意をご理解 いただきたいと思います。解散は正午ごろ。雨天の場合はフリートーク。



2001年前半の予定は **2月18日▽3月18日▽4月1**

5日▽5月20日▽6月17日です。詳細は事務局まで。

☆「北鎌倉の風」誕生！

作詞 山波言太郎 作曲 青木由有子
＜鎌倉から地球の緑を回復させよう＞キャンペーン歌です。詳細はリラ研究グループ自然音楽研究所（電話 0467-45-1230）にお問い合わせ下さい。

☆新規会員募集中！

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」のお取扱について

◆連絡先

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会事務局」
〒247-0062 鎌倉市山ノ内1045(小林方)
TEL/FAX 0467 (22) 7993

◆会費および寄付金の振込先

郵便振替 口座番号 00250-2-20454
口座名 「北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会」

◆会費および寄付金 ※お名前に「ふりがな」を必ずつけてください

《会費・年会費》

分 類	年 会 費
A 会 員 一般	2,000円
B 会 員 大学・高校生	1,000円
C 会 員 中学生以下	500円
D 会 員 家族（会員の家族）	500円
E 会 員 法人	3,000円

《寄付金》

分 類	一 口
F 会 員 一般	2,000円
G 会 員 大学・高校生	1,000円
H 会 員 中学生以下	500円
I 会 員 法人	5,000円

（家族会員＝本人分年会費2,000円＋本人を除く家族会員の人数×年会費500円）

＊緑と古利が織り成す安らぎの街並み保全に力を貸してください＊

発行日……2001年1月14日

発行者……北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会

事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内1045（小林方）

TEL/FAX 0467 (22) 7993

